

様 式 F - 7 - 1

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成24年度）

1. 機関番号 

3	2	6	9	2
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 補助事業期間 平成23年度～平成25年度

5. 課題番号 

2	3	5	9	3	2	6	7
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題 自己決定理論に基づく患者の自律性を支援するための多職種教育プログラムの開発

## 7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 5 5 0 4 9 7	ヤマモト カヨコ 山本 佳代子	医療保健学部	助教

## 8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
2 0 1 5 2 4 3 1	オクミヤ アキコ 奥宮 暁子	医療保健学部	教授

## 9. 研究実績の概要

<p><b>【第1段階】</b> 透析患者の自己管理の動機づけに関する質問紙を、H24年度では4施設に追加配布し、計9施設の患者145名に配布し、最終的に337名に配布260名から回収（77.2%）した。その結果、年齢と透析歴を制御した各概念同士の偏相関では、自律的動機づけと有能感が有意に正相関（<math>r=0.49</math>）し、有能感は自己管理行動と有意に負相関（<math>r=-0.24</math>）していた。自律的動機づけへの影響要因特定のため、重回帰分析をした結果では、導入年齢が高く、社会活動が障害の無いこと、肯定評価的なコーピングスタイルが「自律的な動機づけ」の要因となっていた。また、GHQへの有効回答者198名中、92名（46.5%）がうつ傾向で、15年以上の患者群では、割合が増加していた。長期透析患者には、新たなストレス要因が働く可能性が考えられ、透析患者でのうつ傾向対策の重要性が示唆された。さらに動機づけの変化プロセスを知るために10名の患者対象に質的分析も追加して行い、4段階の変化の構造を確認した。</p> <p><b>【第2段階】</b> 自律性支援に関する意識調査では、11施設の看護師246名に配布し、195名から回収（79.3%）した。患者の自律性を尊重する思考の傾向の有無では、「患者の生活と自律性を尊重する患者観」の項目へ80%以上が当てはまると回答しており、透析患者の生活や自律性を尊重する患者観を持っていた。透析患者の自己管理支援26項目についての設問へは、患者が自律的に学ぶため項目は得点が低く、重要視されていなかった。さらに同じ実施状況への回答は、患者の自律性を尊重する項目の実践度が低かった。主体的就業動機を持って勤務している看護師では、自律性を尊重した支援の項目の実践度が高かった。看護師は、透析に従事していく中で患者観の変化や就業動機の主体化が起り、透析看護のやりがいを増し、各種支援の実践が増えていくことが示唆された。</p>
---

## 10. キーワード

- |        |            |             |               |
|--------|------------|-------------|---------------|
| (1) 透析 | (2) 自己決定理論 | (3) 自律的動機づけ | (4) セルフマネジメント |
| (5)    | (6)        | (7)         | (8)           |

## 11. 現在までの達成度

(区分)(2) おおむね順調に進展している。

(理由)

第1段階についてはデータ収集を終了し、第2段階のスタッフ対象調査の1回目を終了することができている。スタッフへの教育プログラムに関しては調整中で、今年度前半期に実施予定である。よってほぼ計画に沿って実施できている。

## 12. 今後の研究の推進方策 等

(今後の推進方策)

第2段階の教育プログラムの作成と実施、評価のためのアンケート調査を行い、全体の分析考察を行う。教育プログラムの作成は、研究分担者とともに行い、随時、透析施設の看護責任者や認定看護師などの助言を受けながら実施する。研究としての教育プログラムの実施は2施設で許可を得ており、実施後にアンケート調査を実施してプログラムの評価を行う。

(次年度の研究費の使用計画)

H24年度、研究分担者の転勤により会議に必要な交通費が予定を下回ったこと、都合により、学会参加が少なかったことから繰り越しが生じた。その分は、次年度に学会発表を行い、その参加費・交通費で使用予定である。次年度の予定された研究費の主な使用計画として、教育プログラム実施のための交通費・評価アンケート作成費 研究発表のための学会参加費・交通費 研究成果報告のための報告書の印刷代・送料 その他事務用品等で使用することを予定している。

## 13.研究発表(平成24年度の研究成果)

〔雑誌論文〕計(0)件 うち査読付論文 計(0)件

著者名		論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					

〔学会発表〕計(3)件 うち招待講演 計(1)件

発表者名		発表標題	
山本佳代子		透析患者の自己管理行動を支える動機づけを促進する看護の開発 - 第1報 -	
学会等名	発表年月日	発表場所	
虎の門院内看護発表会	2013年01月15日～2013年01月28日	虎の門病院(東京)	

発表者名		発表標題【発表確定】	
山本佳代子 奥宮暁子		血液透析患者における「自己管理に関する自律的動機づけ」形成のプロセス	
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本慢性看護学会学術集会	2013年06月29日～2013年06月30日	兵庫医療大学(神戸)	

発表者名		発表標題【発表確定】	
山本佳代子		透析患者のセルフマネジメント(仮)	
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本腎不全看護学会 関東地区セミナー(招待講演)	2013年09月01日	関内新井ホール(横浜)	

(図書) 計( 0 )件

著者名	出版社			
書名			発行年	総ページ数

## 14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計( 0 )件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

(取得) 計( 0 )件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

## 15. 備考

--